

■ 全体講評

午前Ⅱ、午後Ⅰ、午後Ⅱ試験において、受験者のレベルが昨年より高くなっています。公開模試の午前Ⅰ・Ⅱ試験では、本試験の過去問題を出題していません。そのため、特に午前Ⅱの難易度は高かったと判断します。午後Ⅰ試験は、本試験と同程度の難易度、そして午後Ⅱ試験は、新傾向のトピックが中心の問題でしたので、難しかったと判断します。それにもかかわらず、高得点者が多いことは、受験者全体のレベルが高いということです。特に、休日を返上して会場受験した方の動機づけは強いいため、学習量も多く、その結果、得点力も高いと判断します。

受験者のレベルが底上げされていると思われます。その根拠として、一つは問題選択のミスが激減している点です。以前は受験者の 10%前後がミスをしていましたが、今回の試験では 2%くらいに収まっています。もう一つは誤字が減っている点です。以前は「購買」を「購売」と書く解答が 50%前後と多かったのですが、今回は 10%前後になっています。

以上をふまえると、例年に比べて、記述式や論述式に体裁の整った解答が多いことから、今回の本試験はレベルの高い試験になることが予想できます。これから説明する解答作成のノウハウを確認して、得点力をアップし、より確実な合格を目指してください。

<午後Ⅰ>

問1 小売業の販売システムの設計

【講評】

最初の問題であるにもかかわらず、問題の選択率は平均的なレベルです。解答欄の文字数が多いことが、選択率の高くない理由の一つと推測できます。

設問文の条件を満たす解答を作成しましょう。設問1では、「図3のDFDに関連する」と記述してあります。この条件を満たすようにして正解を導きます。

問題文に具体的な表現があったら、その記述に留意して正解を導くようにします。設問2(3)では、[新システムの概要]の(4)見分業務にある「受注番号、見分受注処理日を明記したメモとともに」という、項目名を記した具体的な記述がヒントになります。

解答を見直して必要なキーワードが欠けていないかを確認しましょう。設問4(2)では、「タイムスタンプで整列する」という解答が5割ほどありました。これでは整列する際の重要なキーワードが欠けています。

以上をふまえて各設問を次のように確認してくださ

い。

設問1では、図3のDFDから「発注処理」、「仕入処理」、「売上処理」に着目して解答を導けばよいことが分かります。

設問2(3)では、[新システムの概要]の(4)見分業務にある「販売担当者の独自の判断で」という記述から「見分受注に上司の承認を必要とする」旨の解答がありました。「販売担当者の独自の判断で」という記述も具体的ですが、項目名を列挙している「受注番号、見分受注処理日を明記したメモとともに」という記述が、より具体的です。厳しいですが、「見分受注に上司の承認を必要とする」旨の解答は不正解としています。

設問4(2)では、整列までは分かっても、昇順か、降順かを指定していない解答が5割ほどありました。時間のなかでも解答を見直すことは重要です。せっかく正解が分かっても見直しが不十分な場合は部分点にとどまることがあるからです。

【採点基準】

[設問1]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。その他は、基本的に0点。

[設問2]

- (1) 「予約在庫」を必須とし解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。キーワードのないものは2点。その他は、基本的に0点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。その他は、基本的に0点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。その他は、基本的に0点。

[設問3]

- (1) 「発注数量」と「現在在庫数量」を必須とし解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。キーワードが一つないと2点。キーワードが二つないなど、その他は基本的に0点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。その他は、基本的に0点。

[設問4]

- (1) ケース：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。その他は、基本的に0点。
処理名：解答例どおりのみ3点。なお、処理名を誤った解答についてはケースを無条件に0点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。「昇順」のないものは2点。その他は、

基本的に0点。

- (3) 「店舗間商品移動処理」と「売上処理」を必須として解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。キーワードが不足しているもの3点。その他は、基本的に0点。

問2 インターネットを利用した通信販売システム

【講評】

問1の問題の選択率が低いため、問2の選択率は高めです。

同じ意味の用語がある場合は、問題文を吟味して適切な方の用語を使って解答を作成します。設問3(1)では、「製造年月日」と「賞味期限」という用語を使った二つの解答がありました。問題文を確認して適切な方で解答する必要があります。

問題文を参考にして注意深く解答を作成してください。設問3(3)の多重度の記述に、ケアレスミスと推測できる解答がありました。

採点者が採点しやすい明解な解答を作成するようにしてください。設問4において、「一つの商品が分割納品」、「一つの注文の中で、商品ごとに分割納品」が分かる解答を書くようにします。

以上をふまえて各設問を次のように確認してください。

設問3(1)では、解答例にある「製造年月日」の代わりに「賞味期限」を使った解答がありました。この問題では、これを不正解とする記述はないので、「賞味期限」を使った解答も正解としています。

設問3(2)では、多重度は“..”とピリオドが二つで表現します。ピリオドが三つある解答は、厳しいですが不正解としました。

設問4では、図1から注文ごとに送付先が一意に決まることが分かります。一方、設問文に「増設後に」と記述されています。したがって、「同じ商品を複数の送付先に送るケース」という旨の解答は、増設に無関係にケースとして考えることができるので、厳しいですが、不正解としました。

設問4では、「一つの商品が分割納品」か「一つの注文の中で、商品ごとに分割納品」のどちらかに分類できるか、という観点で採点しています。どちらにも分類できないと判断した解答は、厳しいですが半分の得点としています。

【採点基準】

【設問1】

a～f 解答例どおりのみ各2点。

【設問2】

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。その他は、基本的に0点。

【設問3】

(1) 「製造年月日」または「賞味期限」を必須とし解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。その他は、基本的に0点。

(2) 解答例どおりのみ3点。その他は、基本的に0点。

(3) 属性：解答例どおりのみ3点。部分点なし。その他は、基本的に0点。

多重度：解答例どおりのみ4点。部分点なし。その他は、基本的に0点。

【設問4】

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各8点。明確さの欠けるものは4点。「一つの商品が分割納品」か「一つの注文の中で、商品ごとに分割納品」のどちらかも分類できない解答や、その他は基本的に0点。

問3 購買システムの設計と移行計画

【講評】

問題の選択率は平均的なレベルです。

追加するファイルの項目名を適切に設定できるようにしましょう。設問1(2)では「枝番」という解答が目立ちました。

問題文に書いてある漢字を間違えないようにしましょう。設問2(1)と(2)で「購売」と書いてある解答が目立ちました。

設問文に沿って解答を作成しましょう。設問3(2)では、設問文において受領書について問うています。したがって、解答も受領書について述べる必要があります。以上をふまえて各設問を次のように確認してください。

設問1(2)では、設問文に「項目の追加を検討した」と記述してあります。したがって、図2の購買ファイルにない項目名を答える必要があります。したがって、適切に命名して、それを解答とします。

設問2(1)と(2)では、「購売」と書いた解答は、厳しいですが、不正解としました。

設問3(1)では、設問において処理名を問うていますが、設問文の「図1を参考に」という記述を基に図1を確認すると、処理名は「～処理」となっていないことを確認してください。

設問3(2)では、受領書について問うているので、納品書に関する解答は、厳しいですが不正解としました。

【採点基準】

【設問1】

(1) 「分割納品」と「再納品」の両方を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。その他は、基本的に0点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。その他は、基本的に0点。

【設問2】

(1) 「納期」と「購買リードタイム」の両方を必須と、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。キーワードが不足している解答は0点。その他は、基本的に0点。

(2) 解答例どおりのみ各5点。部分点なしで、その他は、基本的に0点

【設問3】

(1) 解答例どおりのみ6点。部分点なし。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。その他は、基本的に0点。

【設問4】

(1) 解答例どおりのみ5点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。その他は、基本的に0点。

問4 料理運搬用エレベータの設計

【講評】

組込みシステムの出題であるため、問題の選択率は低いです。

穴埋め問題では空欄部分以外の記述を参考にして空欄部分の内容を求めるようにしましょう。設問2(3)では、図4を参照すると、単に「ON」ではなく、「OFFからON」という表現になっていることを確認してください。

設問文の解答条件の指示に従って解答を導くことが重要です。設問3(3)では不等号“>”で示すことが求められています。

以上をふまえて各設問を次のように確認してください。

設問2(3)の空欄bでは、「OFFからON」という表現以外は厳しいですが不正解としました。

設問3(3)では、不等号“>”の代わりに“<”を用いた解答がありました。厳しいですが、不正解としました。

【採点基準】

【設問1】

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。その他は、基本的に0点。

【設問2】

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているもの

に対し6点。その他は、基本的に0点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。その他は、基本的に0点。

(3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各5点。その他は、基本的に0点。

【設問3】

(1) 解答例どおりのみ5点。

(2) 解答例どおりのみ6点。

(3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。その他は、基本的に0点。

(4) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。その他は、基本的に0点。

<合格に向けて>

みなさん、自分の改善すべき点を確認して、合格を決めましょう。次のような改善策があります。参考にしてください。

みなさんは、漢字を手書きする機会が少ないので、次の2点に留意して学習を進めてください。

・誤字に注意する

特に、「専門」を「専問」、「実績」を「実積」、「暗号」を「暗合」、「購買」を「購売」と書くケースが多いので、記述・論述式試験では気をつけましょう。

・略字を書かない

試験の採点者には、研究者もいるので、論文の体裁には注意が必要です。したがって、略字は書かない方が無難です。

【午前Ⅰ・Ⅱ多肢選択式問題】

基本は、過去問題を解き、解答解説を含めてしっかりと勉強するようにしましょう。分からない点はテキスト学習でカバーするとよいでしょう。

素晴らしい論文を書いている受験者に、去年不合格になった原因を聞くと、午前Ⅱにおいて足切りになった方が多いことが分かります。午前Ⅱ対策は試験の当日まで、継続するようにしましょう。

【午後Ⅰ記述式問題】

過去問題の演習を中心に、解答を鉛筆で書くようにしましょう。解答と正解例のギャップをチェックして、それらに違いが生じた原因を簡単に分析するとよいでしょう。

記述式問題では、設問の条件をすべて満足する解答を作成することが重要です。解答欄に記入する前にもう一度解答条件をチェックしてみましょう。

【午後Ⅱ論述式問題】

問題文を読解する際に留意する点は、要件定義の内容や設計の内容が本当に問われているのか、という点です。

システムアーキテクト試験では設計内容などではなく、施策を中心に問われるケースが多くあります。設計内容なのか、施策なのかを問題で確認した上で、問題文の趣旨に沿って論述するテクニックを適用して解答を作成してください。

試験センタ発表の午後Ⅱ講評から、システムアーキテクトは対象業務の特徴をふまえて設計することを、試験では試されていることが分かります。設問アで述べた、システムの特徴、ユーザ特性、業務特性などをふまえた展開を、設問イでできるようにしておきましょう。時間管理面からは、設問イからウに入るタイミングをしっかりと見計らって、時間内に論文を書き終えるようにして、合格を確実にしてください。

以上

